

奥州市の未来を共に考える 「市民の声」を紹介



テーマ 懇談 土地開発公社の経営検証と対応

Q 市土地開発公社（以下、公社）の一連の件は納得がいかない。当時の理事の責任はどうなるのか。

A 理事の責任については、「手続きに瑕疵がないので責任は問えない」と判断しています。道義的な責任については、関わった方々に、自ら判断していただくものと考えます。

Q 公社の件で、市長の責任の取り方は評価できるが、市としては甘い。民間であれば破綻状態。職員のボーナスを相場企業並みに引き下げて、借金返済の原資に



してはどうか。

A 職員給与につきまして、は、平成23年12月から職員給与を平均4・7%、5年間にわたり削減しているところ。ご理解をお願いいたします。

テーマ 懇談 協働のまちづくり

Q 次世代リーダー養成の「協働のまちづくりアカデミー」は、全コースに参加しなければならぬか。

A 全てに出席してほしいのですが、そのためには申し込みにくいものになっては困ります。関心のある部分だけでもいいので、出席してほしいです。

ぜひ、このアカデミーに参加し、地域づくり活動への関心を高め、まちづくりの仲間を見つけてください。

Q 公社にメスを入れたことは評価できるが、土地の販売は職員OBや全職員で完売させる姿勢が欲しいと考えるが。

A 移管した土地のうち、売却分の38億円分は前倒しして販売を進め、年次目標を上回るよう努めます。また、販売状況については、適宜公表していきます。



Q 協働のまちづくりも中間で見直しの年ということだが、その視点は。昨年年度の振興会や地区センター長との意見交換を踏まえて、協働のまちづ

テーマ 懇談 ILCの東北誘致

Q ILCの国内候補地は誰が決めるのか。

A 候補地を決めるのは研究者で、地形・地質や社会環境基盤を基に評価し、

7月末ごろに決定する予定と聞いています。その後は、政府が日本に誘致するか判断を行います。

Q ILCの受け入れ体制の充実について、行財政改革を推進している中で大丈夫か。

A 今住んでいる外国人市民を含む、全ての市民が暮らしやすいまちづくりを進めることが、受け入れ態勢の充実につながります。先例地のセルンの研究者も特別な地区をつくる必要はないと言っています。地元で溶け込んで暮らすことが良い研究につながるということです。

Q ILCの立地が決まったとき、公社の土地を有効活用する計画はあるか。

A 立地が想定される場所に、相当な面積の土地を保有していますので、積極的な活用策を考えていきます。

テーマ 懇談 財政見通しと行財政改革計画

Q 保育所などの民営化は簡単に進めるべきではない。また、温泉なども建てた時の目的があったはずだと思うが。

A 施設運営については、サービスを持続しつつも、将来にわたって続けることが大事です。そのために、経営方法を模索し、知恵を出し合っていくものです。民営化イコール廃止、という考えではありません。

Q 公の施設の指定管理について、山田町の「大雪りばあねつと」の例もあるのに心配。温泉などは、地元の振興会などに任せてはどうか。

A 公の施設の管理運営を地域で担い、地域の力で盛り上げていただくということは良い提案と考えます。地域が主体となり、やろうとすることに市が応援するというのが、本来のあり方といえます。

施設の管理運営を通じて、施設への愛着、ひいては地域への愛着がわくような取り組みこそが重要です。



由 懇談 日常生活での疑問や要望など

Q 平泉ナンバーについて「岩手」「平泉」のどちらでも使えると思っている市民が多いのではないか。今後は平泉ナンバーのみにしたいことを十分、市民に説明したのか。

A 世界遺産平泉のPRのために一関市、平泉町、奥州市からは3万件弱の要望がありました。この件については、今後市民の皆さんに説明していきます。

Q 協働のまちづくりを進める上でも、支所に一定の権限を残していくことが大事ではないか。また、行政

側と住民側に、支所の役割についての意識に乖離が生じているのではないかと。

A 合併の有無にかかわらず、自立的な自治体運営は常に心掛けなければなりません。効率的な自治体運営のためには、本庁に集約できるものは集約し、市民の日常の暮らしに関わることは支所で完結できるようにしていきます。また、支所の権限の有無によって、地区振興会などの活動の独自性が変わることがないようにしていきます。

市民の皆さんから頂いたご意見を、これからの市政運営に生かしていきます。ご参加ありがとうございました。

Q 統合後の小学校や中学校の校舎活用の見通しはどうなっているのか。

A 結論は出ていません。まだ使える建物や土地は上手に活用するために検討中です。案を作成し、地元の皆さんと相談していきます。

Q 側溝から上げた汚泥は、どうすればよいのか。保管場所がなく放射線も心配。

A 一時仮置き場を自治区ごとに相談しています。そのため、その場で保管するしかない状況です。

Q 父が倒れて介護を始めましたが、介護施設に相談したところ100人待ちと言われた。施設整備の考えは。

A 介護施設は必要数を整備する計画です。ただし、施設を整備すると介護保険料も上がるので、保険料とのバランスを考慮しながら進めていきます。